



## Ⅱ. 基本構想

---

# 第1章

## まちづくりの基本理念

### 基本理念

## 新しい時代につなぐ豊かな万葉の里・おおひら ～みんなで支え 笑顔で暮らせる まちづくり～

本村は豊かな自然に包まれている中で約6,000人の人口規模であり、各地区においては住民同士がふれ合いながら地区活動を展開しており、良好なコミュニティが育まれています。一方で、地区ごとに人口増減に差があり、大半の地区では将来において人口減少・少子高齢化が懸念されています。

また、本村は農業を基幹産業としながらも、自動車関連企業を中心に多くの企業が立地し、産業活力は旺盛であり、村を支える財政状況は健全となっています。そして本村の人口規模では、子育て支援や教育サービス、高齢福祉サービス等の行政サービスを住民に対して的確に提供することが可能となっています。

そのためこれら本村の人口規模や地区のコミュニティを基本としながら、本村を持続するために地区を越えて関わりを持ち、本村に関わるみんなで支え合い、村の強みを生かし、弱みを克服して、村全体でのコミュニティづくりを展開します。それにより、行政サービスが確実に受けられる中で、子どもや若者世代、高齢者、障害者等の全世代・多様な人々が村全体で交流することができ、これからも笑顔で暮らせるまちづくりを目指します。

そして、本村は今まで「万葉の里」をキーワードとしてまちづくりを進めてきており、「万葉」はすべての世、すべての草木、永遠の繁栄等を意味しています。これからも「万葉の里」をキーワードとして、新しい時代においても自然環境や行政サービス等が豊かな村を持続し、未来につなぐことを目指します。

# 第2章

## 大衡村の将来像

### 1 基本指標

#### (1) 目標人口

##### ①予測

本村の国勢調査による平成27(2015)年の総人口は5,703人です。国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研)の推計によると、この傾向が続くと仮定した場合は、総合計画の目標年次の令和12(2030)年には約500人減少の5,217人になると推計されます。

##### ②目標人口

「新しい時代につなぐ豊かな万葉の里・おおひら ~みんなで支え 笑顔で暮らせる まちづくり~」の実現に向けて、人口ビジョンと整合させて、令和7(2025)年から転出入人口の均衡を図るとともに、令和12(2030)年から合計特殊出生率を2.1まで向上し、令和12(2030)年の目標人口を5,800人とします。

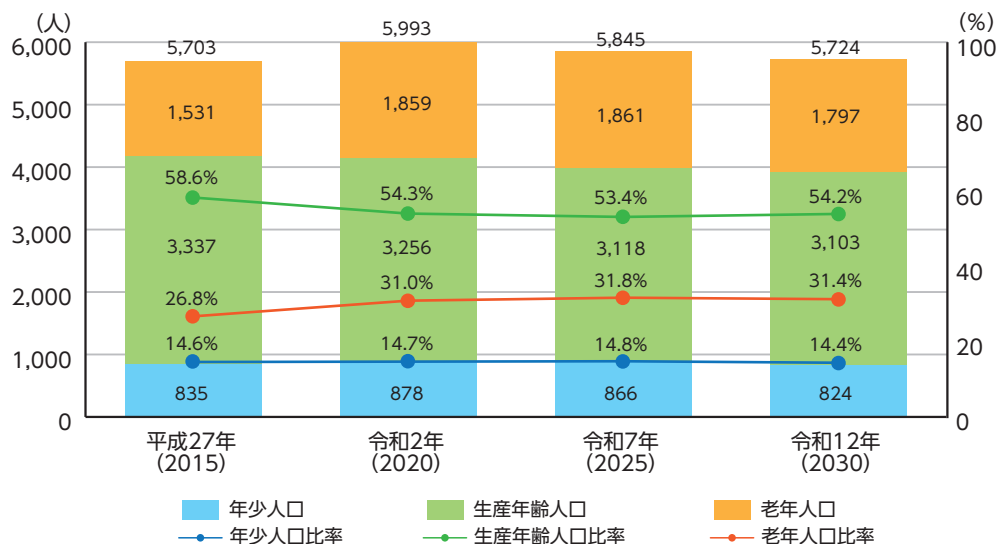
#### 人口の目標

**令和12(2030)年の目標人口：5,800人**

令和12(2030)年の 将来人口比較	社人研推計値		将来展望		増減	
	人口	比率	人口	比率	人口	比率
総人口	5,217人	100.0%	5,724人	100.0%	507人	0.0pt
年少人口(0~14歳)	727人	13.9%	824人	14.4%	97人	0.5pt
生産年齢人口(15~64歳)	2,723人	52.2%	3,103人	54.2%	380人	2.0pt
老年人口(65歳以上)	1,767人	33.9%	1,797人	31.4%	30人	-2.5pt

※社人研推計値とは、国立社会保障・人口問題研究所による推計値

#### 人口ビジョンの将来展望(2030年まで)

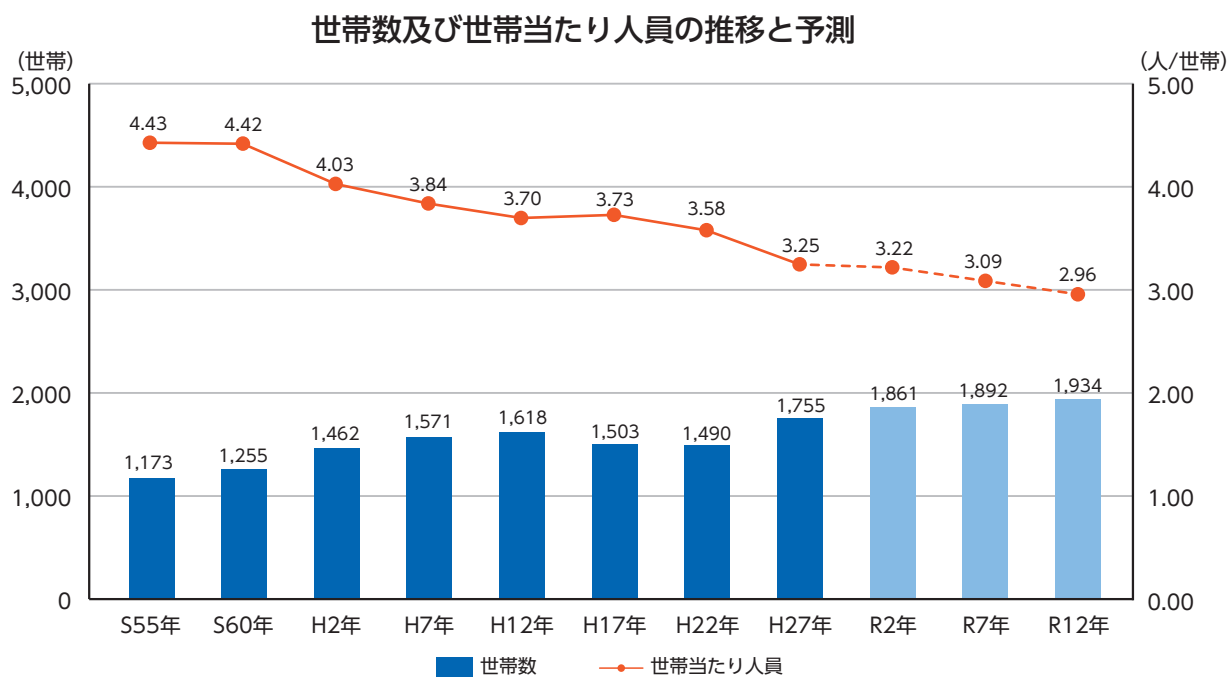


## (2) 目標世帯数

### ①予測

本村の国勢調査による平成27（2015）年の世帯数は1,755世帯で、世帯当たり人員は3.25人／世帯です。昭和55（1980）年以降、世帯数は増加し、平成12（2000）年をピークに減少しましたが、平成27（2015）年にはまた増加に転じています。なお、世帯当たり人員は減少を続けています。

このままの傾向が続くとすると本計画の目標年である令和12（2030）年の世帯数は1,763世帯、世帯当たり人員は2.96人／世帯と予測されます。



※R2年以降の数値は、H2年からH27年にかけての回帰予測にて推計

### ②目標世帯数

令和12（2030）年の目標人口に対する世帯数については、上記で推計した世帯当たり人員（2.96人／世帯）に基づき1,950世帯と設定します。

#### 世帯数の目標

令和12（2030）年の将来世帯数比較	社人研に基づく推計値	将来展望	増減
世帯数	1,763世帯	1,934世帯	171世帯
世帯当たり人員	2.96人/世帯	2.96人/世帯	—

※目標年の世帯数は、「目標年の世帯数＝目標人口／推計世帯当たり人員」として設定

※社人研推計値とは、国立社会保障・人口問題研究所による推計値

## 2 土地利用

本村の平成29（2017）年現在における土地利用としては、村面積6,032haのうちの2,066ha（34.3%）が森林、1,363ha（22.6%）が農地となっており、全体の約6割が自然的土地利用となっています。

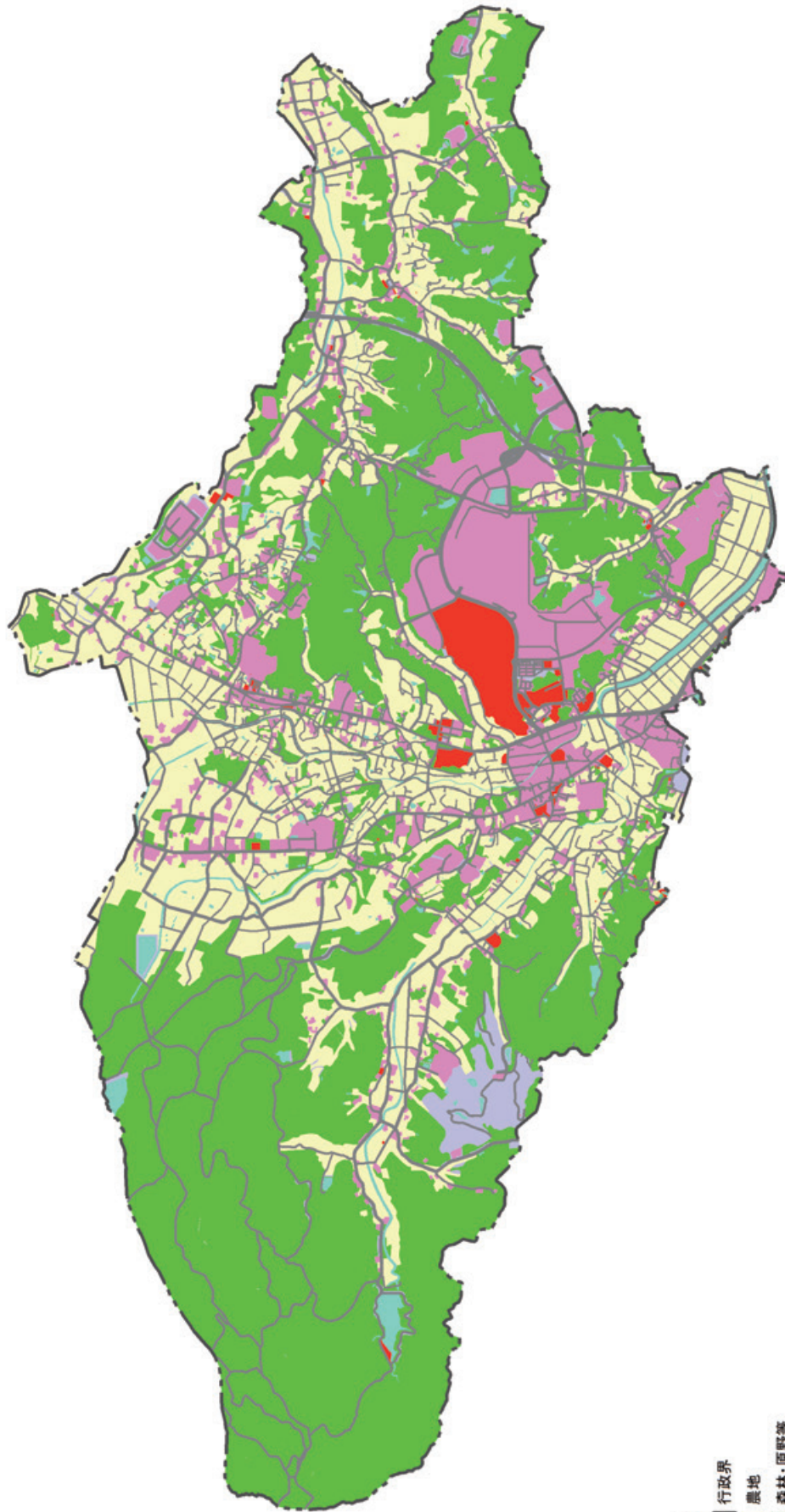
今後計画されている開発事業等により、森林および農用地は減少することが予想され、宅地は平成29（2017）年現在396ha（6.6%）であり、令和12（2030）年には473ha（7.8%）になるものと見込まれます。

### 村土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標

単位：ha・%

利用区分	平成29年	令和7年 (中間年次)	令和12年	構成比		
				平成29年	令和7年	令和12年
農地	1,363	1,339	1,324	22.6	22.1	21.9
田	1,130	1,117	1,108	18.7	18.5	18.4
畑	233	222	216	3.9	3.7	3.6
森林	2,066	1,979	1,925	34.3	32.8	31.9
原野等	776	806	817	12.9	13.4	13.5
水面・河川・水路	170	176	178	2.8	2.9	3.0
道路	321	342	355	5.3	5.7	5.9
宅地	396	443	473	6.6	7.3	7.8
住宅地	124	127	129	2.1	2.1	2.1
工業用地	122	153	173	2.0	2.5	2.9
その他の宅地	150	164	173	2.5	2.7	2.9
その他	940	946	958	15.6	15.7	15.9
合計	6,032	6,032	6,032	100.0%	100.0%	100.0%

土地利用構想図 (令和12年目標)



- 凡例
- 行政界
  - 農地
  - 森林・原野等
  - 水面・河川・水路
  - 宅地
  - 公共施設用地
  - 道路
  - その他



# 第3章

## 施策の大綱

本村のまちづくりの基本理念である『新しい時代につなぐ豊かな万葉の里・おおひら～みんなで支え 笑顔で暮らせる まちづくり～』を実現するために、まちづくりの課題を踏まえて、まちづくりの基本方針として以下のとおり5つの施策の大綱を設定します。

### 基本理念

新しい時代につなぐ豊かな万葉の里・おおひら  
～みんなで支え 笑顔で暮らせる まちづくり～





## 1 みんなが快適に暮らし続けられるまちづくり

本村の暮らしやすい生活環境を整えるため、住宅や生活利便施設の整備がしやすくなるような計画的な土地利用を図るとともに、生活サービスを充実させて、安全・安心な暮らしやすいまちづくりに取り組みます。そして若者が住み続けたいくなるよう、定住化を促進し、持続可能なまちづくりを目指します。

また、村外の人に対して、本村の行政サービスやコミュニティ、自然環境等の魅力を発信して、村内への移住・定住につなげられるような取組を進めます。

### 施策項目

- ①土地利用
- ②市街地整備
- ③交通体系
- ④生活環境
- ⑤防災・防犯
- ⑥防衛施設周辺環境

## 2 みんなが参加し、交流でにぎわうまちづくり

地域経済の活性化に向けて、本村の特徴である農工併進を基本として、自動車交通の高い利便性を活用した工業や物流等の産業拠点の集積を促進するとともに、本村の基幹産業である農業を中心とした産業振興を推進します。

また、本村には村外から多くの交流人口が訪れる万葉クリエートパーク等の観光資源があるため、これら既存施設の強化をはじめとして、歴史・文化や自然環境等の魅力を最大限に生かしながら、本村のPR・認知度向上に向けた効果的な情報発信を行い、交流人口の拡大を目指します。そして、農商工連携による特産品の開発・販売等による地域産業の活性化に取り組むなど、交流人口を活用したまちづくりを展開していきます。

### 施策項目

- ①農林業
- ②工業
- ③商業
- ④観光
- ⑤交流活性

## 3 みんなが支え、子どもがたくましく育つまちづくり

本村では、医療費助成を目的とした万葉すくすく子育てサポートや給食費無償化等の子育て支援施策を実施しており、今後はこれらの施策を継続するとともに、若者の定住化に向けて、働きながら安心して子どもを産み育てることができる環境づくりや子育て支援の一層の充実を図ります。

また、次代を担う子ども達が大衡の歴史や文化を知り、成長した子ども達が本村に住み続けることができるよう、愛着と誇りを持てる特色ある教育の充実や文化活動の展開を図ります。

### 施策項目

- ①子育て支援
- ②教育
- ③文化活動



## 4 みんなが健康で元気なまちづくり

すべての住民が健康で元気に暮らせるように、基盤となる福祉・保健・医療施策の充実を図るため、それぞれの世代に応じた効果的な健康増進や介護予防等の取組を進めるとともに、みんなが支え合いながら参加できる福祉活動を展開します。

また、みんながいつまでも住み慣れた地区で健康で元気な生活を送ることができるよう、自ら進んで健康づくりや生きがいづくりに取り組むことができ、スポーツ・レクリエーションに親しめる機会等を持ちながら、いきいきと活躍できる地域社会づくりを目指します。

### 施策項目

①福祉

②医療

③生涯学習

④スポーツ・レクリエーション

## 5 みんなが集い、つながるまちづくり

本村では今まで良好なコミュニティを育てており、今後の人口減少・少子高齢化においても地区を持続するために、地区を担う人材の養成等を図ります。

また村全体でのコミュニティづくりを目指し、まちづくりに関する情報発信を行うとともに、住民と行政、民間企業との適正な役割分担の下で協働のまちづくりを推進して、人々が憩い交流できる拠点づくりや住民による企画等について支援し、みんなが集い、つながるまちづくりを進めます。

行政においても、健全な行政運営及び財政運営に向けて行政評価や自主財源の確保等に努めるとともに、広域行政における協力体制の強化を図ります。

### 施策項目

①コミュニティ

②まちづくり

③高度情報化

④行政運営

⑤財政運営

⑥広域行政



